

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170103705		
法人名	有限会社ウインドワード		
事業所名	グループホームひなたぼっこ		
所在地	岐阜市梅林南町12番地		
自己評価作成日	令和7年7月25日	評価結果市町村受理日	令和7年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2170103705-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設の前は梅林公園です利用者の方が散歩に行くのも疲れない距離です。公園内の整備が進み車椅子が使用しやすくなりました。四季の移り変わりも肌で感じる事が出来、周囲の環境もとても良いです。又職員の定着も良く、落ち着いた雰囲気です。職員の資格取得者も多く、どのような利用者の方が入所されても対応出来るよう、日々、技術をみがいている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所前にある梅林公園内での散歩、園芸作業や行事など、利用者が季節を感じながら過ごせるよう支援している。食事担当職員が中心となり、栄養バランスの良い美味しい手作り食を提供している。協力医の往診は、ほぼ毎日あり、重度化や急変時、看取り期にも安定した支援を行うことが出来る。家族との面談も行いながら、SNSなどで情報共有している。管理者は職員個々の力量や家庭の事情を把握し、ワーク・ライフ・バランスを保てる環境を整えており、職員の定着率も高い。また、利用者と家族からは、常に利用者の気持ちを優先した職員の温かな支援に向けて、謝意の声が届いている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「老いを笑うないずれ私も通る道」の気持ちを忘れないように玄関に掲げている。利用者の方の気持ちに寄り添えるよう、全職員と共有し理念を実践出来ていると思う。	理念を玄関に掲示し、管理者と職員が共にケアに臨んでいる。課題がある場合は、その場で振り返りながら適切な支援に繋がっている。管理者は、利用者との日々の関わりについても、職員と会議で話し合いながら、理念についての理解を深め、実践に繋げるようサポートしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流を持てるよう自治会に入会している。利用者の方の状態に合わせて行事に参加。利用者の方が無理な時は職員だけでも可能な限り参加できるよう心がけている。	事業所は自治会に加入し、地域の消防訓練や清掃活動に参加している。可能な時には利用者也参加し地域住民と交流している。事業所の防災訓練を行う際には近隣に案内し、地域包括支援センターの会議や行事等にも出かけている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の方の個々の状況やケア方法を説明させて頂きながらサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、岐阜市介護保険課、地域包括支援センター、民生委員等の参加を得て、意見交換を行ない、得られた意見をサービス向上に活かしている。自治会長や家族にも会議の案内をしているが参加がなく、後日、個別に会議報告をしている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議欠席の場合、資料を送り把握して頂いている。また、電話や市役所に直接行き相談させて頂いている。	市の介護保険課担当者とは、日頃から事業所の現状報告をしながら、困りごとの相談を行っている。電話で尋ねたり、窓口に出向いて直接相談しながら協力体制を築いている。運営推進会議への参加も得ている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者 全職員が理解している。夜間は防犯上の事もある為玄関の施錠を行っているが昼夜問わず玄関には人口センサーが付いている。昼間は玄関の施錠は行っていない為面会時インターホンを押さなくても出入りが出来る。3ヶ月に1回身体拘束適正化委員会もやっている。	3ヶ月に1回、職員会議日と併せて、身体拘束適正化委員会及び研修会を実施している。委員会や研修会は管理者が中心となって、職員と共にケアの振り返りを行い、事故防止や身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者 全職員が常に心掛けている。3ヶ月に1回虐待防止について話し合い、小さなことでも虐待に繋がらないよう職員間で注意しあい防止に努めている	虐待防止委員会は、身体拘束適正化委員会と同日に開催している。気づかないまま、不適切なケアを行っていないか、事業所全体で支援を振り返り、虐待に関する正しい知識を持って予防意識を高め、虐待の防止に繋がっている。	

岐阜県 グループホームひなたぼっこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者 一部の職員は理解している。現在成年後見人を利用している利用者の方もみえる。今後も必要であれば相談にのれる準備も出来ている		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項に添い説明を行い質問等を受けながら理解を得ている。又改正の際は電話やメールで面会時に説明し、文書を郵送、来訪時に再度説明を行い理解を得ている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方の意見、要望は日常会話から拾えるよう心掛けている。又家族の方に関しては来訪時やメールなどで要望、意見を聞くようにしている。玄関に相談箱の設置もしている。外部への相談については、重要事項に記載している	利用者の意見や要望は、日々の関わりの中で把握しケアに反映させている。家族とは、月1回の面談やSNS等で要望や意見を聴きながら、家族との信頼関係作りに努めている。玄関に相談箱を設置し、意見等を運営に反映させている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1度会議を開催し、サービスの在り方について議論すると共に職員の個々の気持ちを聞くようにしている。話さずらいことなどは個々に話を聞く機会を設けている。又半年に1回面接を行い反映に繋げるよう努めている	管理者も現場でケアに携わっており、職員の意見や提案を聴いている。毎月の会議でも振り返りながら、できることから運営に反映させている。また、管理者は勤務時間外であっても、困りごとや業務の相談にのりながら、安心して職員が働けるようサポートしている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	代表者、管理者は同一人物であり、日々現場で一緒に仕事をしている為個々の状況把握できている。職員が長く安定して働けるよう個々のワークライフバランスに配慮し職場の環境づくりに取り組んでいる	管理者は職員それぞれの家庭の事情を把握し、希望の休日や急な欠勤についても、配慮しながら、ワーク・ライフ・バランスが保てるよう支援している。職員間のチームワークを高め、長く安定して働けるよう職場環境を整えている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修希望の職員には、それに必要とする費用を事業所が負担している。又個々の状況に応じレベルアップ出来るよう法人内の研修と共に現場で学べるよう努めている	管理者は、半年に1回、職員と個別面談を行っている。職員の自己評価と管理者の評価に差がある項目については、話し合いながら改善策を見出せるよう支援している。職員個々の状況に合わせ、様々な研修に参加できるように支援している。	管理者の密なサポートにより、職員は介護の質の向上に向けて学びを重ねている。今後も、研修受講にて、それぞれがレベルアップし、自信を持って利用者中心のケア継続に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来る限り交流が持てるよう、勉強会の参加など、少しの時間でも、顔を出せるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	第二の我が家と職員が思ってもらえるよう出勤時は「ただいま」帰宅時には「いってきます」を日常から使っている。今では定着し利用者の方からも「おかえり」「いってらっしゃい」と声を掛けて頂けるよう、良い関係作りが出来ている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が可能であれば日常生活の中で本人さんとコミュニケーションを取りながら本人の希望に添った暮らしが出来よう努め、困難な方の場合、表情、仕草など、選択肢を提供しながら本人本位に添えるよう努めている	日々の支援の中で、利用者に思いや意向を聴き、希望に沿った支援に取り組んでいる。意思表示が困難な場合は、家族の情報を参考にしたり、これまでの利用者との関わりで得た事柄から推測し、意向に沿ったケアの提供に努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1度の会議で職員、ケアマネと話し合いを行い、話し合いの結果を家族の方に伝え意見、アイデアを聞き相談させて頂きながらケア計画を作成している	管理者はケアマネジャーも兼任している。面会時や電話等で得た家族の意見や意向、毎月の職員会議で検討した内容を介護計画に反映させている。作成した介護計画の内容は、面談等で家族に説明している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の個々の記録を出来る限り細かく残し、それを全職員が把握し対応出来るようにしている。記録や職員が感じた事を元に話し合いを行い実践に活かすと共に計画の見直しにも活かしている。記録については家族の方限定で見ることが出来る。	職員は、介護計画を常に意識してケアを実践している。利用者の日々の状態やケア内容の詳細、気づき等を介護記録に記載し、職員間で情報共有している。記録を基に、利用者個々のケアについて話し合いながら、計画の見直しにも活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に本人さんの日々の状況に合わせて柔軟なサービスが提供出来るよう努めている。状況に合わせて居室の移動が必要な場合なども対応可能	利用者・家族のニーズに柔軟に対応できるよう努めている。公園の散歩や敷地内での花火、園芸作業など、利用者が楽しめるよう工夫している。利用者の希望があれば、管理者が散髪を行い家族に写真を送っている。	

岐阜県 グループホームひなたぼっこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター、民生委員、生活福祉課の方などと交流はあるが、地域資源の活用は出来ていない。地域のイベントなどは参加できるよう努めている。秋葉さんのお参りや消防災害訓練など。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けられるよう支援している。施設の契約医院や整形、歯科など納得されている病院の往診をお願いしている。また、本人、家族の方が行き慣れている病院に外来で通われたりしている	協力医または往診が可能なかかりつけ医を選択することができ、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。整形外科や歯科などの専門医の往診も受けることができ、通院は家族の協力を得ながら支援している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった場合は、入院先に利用者の方の状況説明を行うと共に入院先の医師や看護師の方、ご家族に経過を聞きながら、退院時受け入れが可能か相談を重ね、可能な場合は退院後も病院との関係を築きながら支援している	管理者が、入院先に利用者の状況を記録した申し送りシートを提供し、医師、看護師、家族から入院中の情報を得ている。退院後の支援については、家族と相談している。事業所に戻る場合には、医療機関と連携し受け入れ体制を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明を行い、本人、家族の方の思いを聞くと共に重度化、終末期を迎えられた場合、本人、家族、主治医、職員と話し合いを常に行い、状況を共有し、より良い支援が出来るよう努めている。	入居時に看取りについて説明し、同意を得ている。重度化や終末期に入った際には、医師、看護師、家族、職員で話し合い、家族の意向を再確認し意向に沿ったケアを提供している。看取りの指針やマニュアルを整備し、より良い支援に努めている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の会議で定期的に、急変時、事故発生時の対応について指導している。連絡体制も整えている。今後も実践に活かせるよう訓練を重ねていく。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は勿論、他の災害に備え定期的に訓練シミュレーションを行っている。避難のタイミングや夜間時の対応、連絡手順の把握などを行っている。又何かの時には手を貸して頂けるよう地域の方をお願いしている。	年2回火災、地震、水害を想定した避難訓練を行っている。連絡網には自治会長の連絡先が明記しており、地域の協力体制もある。利用者の避難用リュックサックや備蓄品の点検、緊急時の連絡手順の把握などを行っている。BCP(事業継続計画)を策定し訓練に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格を把握し、その方に合った対応を心掛けている。トイレやオムツ交換の際、周りに分からないよう配慮し誘導している。(本人が訴えた場合は別)名前の呼び方なども本人さんの希望に合わせて呼ばせて頂いている。	入居時に、利用者の呼び方について、本人・家族に希望を聞いている。また、個人情報の保護やプライバシーを損ねない支援についても、全職員が学び、日々のケアの中で、声掛けや対応が適切であるかを振り返りながら、支援に取り組んでいる。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何をするにも、本人さんの希望、要望を聞き無理時するのではなく自分で選択して頂き自分らしく生活できるよう努めている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴の時間は決まっているが、個々の生活のペースに合わせて日々過ごして頂いている。又利用者の方の希望に添えるよう日々努めている		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事を作ったり、おやつを用意したり、準備や片づけを積極的に手伝っていたい	夜勤者が朝食を作り、専属の調理担当職員が、昼・夕食を手作りしている。利用者の好みや栄養バランス、彩りに配慮し、ミキサー食や刻み食等、利用者にあった食事形態にしている。刻み食の場合も盛付けを工夫しながら、食べる楽しみに繋げている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録は勿論、利用者の方の体調に合わせ、水分量のチェックも行っている。食事は常食、刻み、ミキサー食、水分ロミなど、状態に合わせてながら安心して摂取出来るよう配慮している		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせ、職員が見守りや仕上げ磨きを行っている。	利用者の状態に応じて、食後に口腔ケアを行っている。自立を継続できるよう、利用者自身での歯磨きを支援しているが、ほとんどの利用者が仕上げ磨きが必要になってきている。訪問歯科診療を希望する利用者は、受診に繋げている。	

岐阜県 グループホームひなたぼっこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄の状況 身体の状態を把握しその方に合った支援を行っている。失禁の多い方は誘導回数を増やすなど失禁回数を減らせるよう対応。夜間など身体の状態に合わせポータブルトイレを使用するなど自立に向けた支援を行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の時間は決まっているが、午前、午後毎日入浴時間がある。お風呂が好きな方は毎日入られる。湯舟につかりたくない方はシャワー浴して頂くなど個々に合わせ支援している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて居室のベッドで休んで頂くなどで対応している。居室の温度 湿度調整を行い気持ちよく睡眠がとれるよう配慮している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師の説明を聞き職員内で共有したうえで服薬の見守り、介助を行っている。状況に変化が見られたときは、主治医に連絡し支持をもらっている	管理者が、薬局から届く薬を利用者毎に分け、職員とダブルチェックを行なっている。確実に飲み込んだか、落葉がないかなど、服薬支援時に確認を徹底しながら、見守りと誤薬防止に努めている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室の掃除 洗濯たたみ 食事作り 片付けなどお手伝いして頂いている。又個々のやりたい事趣味などを取り入れながら日々過ごして頂いている。新聞をみたり、縫物や散歩、個々の希望に添った支援をしている。	利用者の得意な事やりたい事を聞き、可能な限り取り入れ支援している。紙切り、洗濯物たたみ、片付けなど、利用者が積極的に役割を担えるよう声かけしながら支援している。また、「うちわ作り」なども、職員と一緒に楽しみながら行なっている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	公園の散歩、流しそうめん、花火、秋涼み、地域のイベントの参加などの支援を行っている。家族の方と外出される方もみえる。	暑さの影響で計画通りの外出は難しいが、地域のイベントや季節の行事への参加などに取り組んでいる。天候や利用者の状態を考慮しながら、事業所前の梅林公園の散歩、庭での野菜や花作りなどで気分転換を図っている。家族との買い物や外食など、外出する機会も増えている。	

岐阜県 グループホームひなたぼっこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は所持していない。しまった場所が解らない、捕られたとパニックを起こされたり、ご家族が管理し所持していない。外出時は、支払いなど利用者の方をお願いするなどの支援は行っている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話 手紙をやり取りしている。身体的に無理な方は写真や動画を送っている		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りつけをし、庭には野菜を植え季節を感じ取れるよう配慮している。又居心地よく過ごして頂けるよう湿度 温度 光 音 臭気 清潔 換気に気を付けている	共有部分は、換気と適切な室温調整、整理整頓により、清潔を保持している。窓も大きく、庭の花や野菜の成長を眺めながら、利用者は四季を感じることができる。利用者が好きな場所で、落ち着いて過ごせるよう、ソファや食卓の配置を工夫しており、家庭的な雰囲気がある。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごされる利用者の方、居間で過ごされる利用者の方と分かれています。座る位置は決まっているが、居間のソファ、空いている席は自由に使用して頂いている。新聞や本も自由に読めるよう配慮している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時 家族の方に、出来る限り新しいものではなく、これまで使い慣れた親しんだ物を持参して頂くようお願いし、少しでも今までの生活と変化がないように配慮している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂場やトイレには解り易いように目印をつけている。施設の廊下は一直線の為、利用者の方は職員の存在が解りやすく、職員も利用者の方の行動が見やすく安心です。		